

ふれあおう!!自然と人と感動と

福山市立西深津小学校 対象学年(5年)

体験活動の種類 自然 交流

体験活動場所・宿泊場所 庄原市比和町三河内・民泊

【学校紹介】

本校は、福山市のほぼ中央部に位置する学校である。

本校の教育目標は、『「学ぶ楽しさ、生きる喜び」をもつ子どもの育成』で、4年前から研究主題を『キャリア教育の視点に立った授業の創造～「総合的な学習の時間」における人間関係形成能力の育成～』として、生活科・総合的な学習の時間を中心に、体験活動を工夫したり、たくさんの人とコミュニケーションをとることができる場を設定したりするなどしてきた。その一環として、5学年では、4年前から庄原市比和町での2泊3日(今年は3泊4日)の民泊体験を行い人間関係形成能力向上に取り組んでいる。



校長名：三谷 圭二

児童数(学級数)：299名(14学級 特別支援学級を含む)

所在地：福山市西深津町五丁目1番1号

電話番号：084-926-5212

URL：<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-nishifuka/>

めざす子ども像

よく考える子

助け合う子

元気で明るい子

【体験活動のねらい】

自然の中での集団生活を通して、自律性や社会性を育成する。

交流地域の人々との豊かなかかわり合いの中で、コミュニケーション能力を中心とした人間関係形成・社会形成能力を高める。

地域のための活動を体験することで、地域を大切にすることを体得させる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月 ～ 7月	体験活動に向けて(事前学習)			学校	
	・植物や生物の生育する環境を知る。	3	理科		理科専科
	・「待合室で出会った少女」2-(1)	2	道徳		担任
	・「おもちゃのシンフォニー」4-(3)	4	総合的な学習の時間		担任
	・庄原市について調べる。	6	家庭科		担任
	・料理の手順を知る。地域の人とのかかわりを考える。	2	国語科		担任
・敬語の使い方を知る。	2	学級活動	担任		
・テーマ設定、班別目標設定等					

描きたいことがあって「どのことを描こうか」など、友達と相談しながら2枚の絵を仕上げることができた。そして、1枚を民泊先に渡し、1枚は自分で持ち帰った。

この体験は、活動を振り返るためにとても良い活動であった。また、2学期になってからも民泊先と連絡を取り合うきっかけにもなり、つながりを深めることができた。

奉仕活動

「お世話になった三河内の人々にお礼の気持ちを表そう」というめあてで、開村式やキャンプファイヤーなどで使った旧三河内小学校の清掃活動を行った。地域の人々から「暑いのにありがとう。」「とてもうれしいよ。」などと声をかけていただき、児童たちは進んで働くことができた。



作成した俳画

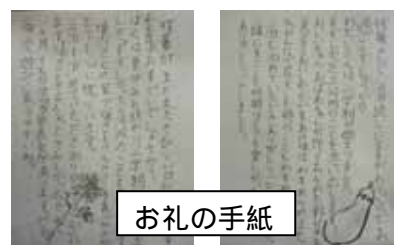


奉仕活動

【体験活動の効果を高める事後学習】

お礼の手紙作成（国語科）

9月に民泊先での出来事を思い出しながらお礼の手紙を書いた。俳画体験を生かし、手紙に絵を入れて、民泊先の人々を思い浮かべながら相手を意識して、自分の言葉で書くことができた。



楽しい2日間、ずすしかった三河内のことをよく思い出します。会って間もない私たちにとっても優しくしてくださりうれしかったし、なにより温かいご夫婦で安心しました。2泊も泊めていただき親しくなり、帰るときはとても悲しかったです。（児童作文の一部）

成果発表会（総合的な学習の時間）

「活動での感動を伝える」ために成果発表会を行った。発表会は、保護者・地域の方・異学年など相手によって伝え方を工夫させた。学習発表会には、民泊先の方々を招待して、感謝の気持ちを伝えた。また、新聞を作成して地域の施設などにも掲示した。

発表会では、三河内の自然や民泊先でお世話になった人たちの顔を思い出しながら発表しました。当日は三河内の人たちを招待して見てもらいました。緊張したけど、自信を持って発表できました。素晴らしい発表ができたのは、お世話になった方たちやたくさんのアドバイスをくれた友達のおかげだと思います。発表会ではがんばることや友達の大切さを学ぶことができました。（児童作文の一部）



〔民泊先の方との交流会〕



〔成果発表会〕



〔作成した新聞〕

【交流先や施設等との連携】

〔事前〕

現地での2回の事前打ち合わせ・下見調査を行った。受入先の方々とねらいや費用、活動内容・活動場所などについて確認した。

詳細については、電話やメールで打ち合わせを行った。

児童の体調管理について綿密な連携を行った。

[活動中]

4件の民家には、児童と一緒に教師も泊まり民泊体験をした。

[事後]

民泊への礼状・学習発表会への招待状・民泊先の方々を招いての交流会、年賀状等継続して交流できるようにした。

【評価の工夫】

自己評価 1回目のアンケートで課題のあった点から、活動ごとに同じ観点で行った。

ふりかえりカード 活動内容()		よく	でき	あま	でき
			た	り	ない
1	全体や相手のことを考えながら すすんで行動した。				
2	すすんであいさつしたり、話したりした。				
3	友達と協力して活動した。				
4	自分のよさや相手のよさをみつけることができた。				

わかったことや思ったことを書きましょう。

次がんばることを書きましょう。

--

- ・トマトは、本当はきれいだったけど、黒っぽいトマトを食べたら、汁がいっぱい出てきてあまくておいしかったです。
- ・野菜は、農家の方が一生懸命作ってくださったので、感謝して食べたいです。
- ・わたしはカレー作り体験で、鶏肉を初めて切ってみると、ぬるぬるすべって皮が切りにくいことがわかりました。
- ・友達と一緒に過ごしたり、初めての家に泊まったりして、自分の意見をはっきり言うことができるようになった。

相互評価

友達のがんばっているところやすごいと思ったことを付箋に書いて毎日交換した。そうすることで「認められている」「わかってもらった」という気持ちを持たせ、自己肯定感を高めることができた。また、友達のよさや頑張りを見つけようという姿勢にもつなげることができた。



相互評価

【安全面の配慮事項】

「危険管理マニュアル」「救急体制」を作成し、全教職員で確認した。

事前に活動場所を下見して、施設の方などと安全確保について打ち合わせを行った。

民泊時には本部を作り、すぐに連絡ができるようにするとともに見回りを行った。

体調管理・活動時の服装・持ち物などについて保護者との綿密な連携を行った。

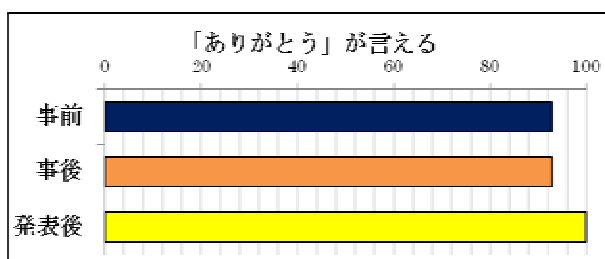
【体験活動の成果と課題】

家族や友達のやさしさやありがたさに気付き、感謝をする気持ちを持つことができた。

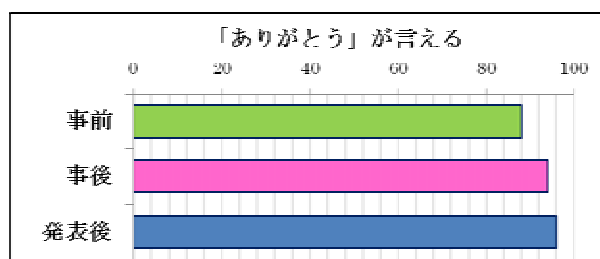
三つ目は、家族や友達の大切さがよく分かりました。民泊先で一緒に過ごすことで、教室の中では見ることができない友達の姿を知り、協力して作業することができるようになりました。また、3泊4日も家族と離れてみると、いて当たり前家族がいなくてさびしくなりました。特に、お母さんの見えない心づかいがたくさんあって生活していたことがわかりました。これからは、少しずつ自分のできることを増やしていきたいです。(児童作文の一部)

全く知らない方々と触れ合うことで、人と関わることについて積極的になり、またいろいろしていただいたことで感謝の気持ちを持つことができるようになったと思います。

(保護者アンケート)

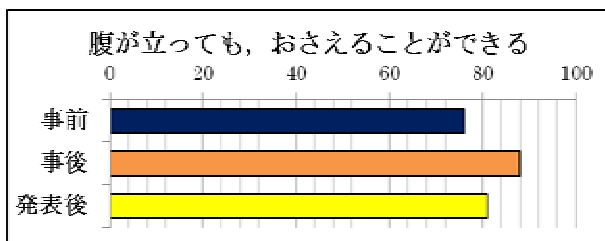


児童アンケート

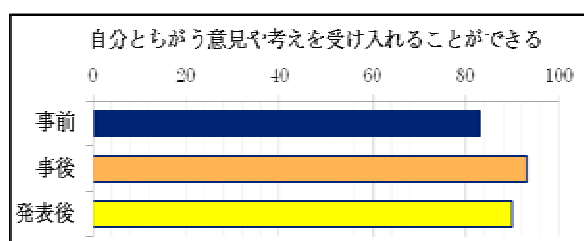


保護者アンケート

民泊先の人々から褒められる経験や事後の発表の中で認められた経験を積み重ねることで、相手の気持ちを考えたり、自分の感情をコントロールしたりすることができるようになってきた。



児童アンケート



児童アンケート

昨年度まで1泊だった民泊を2泊にすることで、民泊先の方とゆっくり触れ合うことができた。そして、民泊先の人とは、学校だけでなく個人的な交流も続いている。

地域の方からの依頼で公民館でも発表会を行った。児童と地域を結びきっかけになった。

体験活動で学んだことから、自分の地域を大切にするという気持ちを持たせたいと考えていたが、「自分が暮らす地域のために何かしたい」というアンケート結果の数値が下がってきた。体験活動から地域活動への単元構成の見直しや、意識付けを行う。

体験活動での学びや成果を継続していくように、最高学年として、自ら考え行動する態度へつなげていく取組を行う。